

## 第4回 (仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定懇談会 会議録

- 
- 1 開催日時 平成31年2月26日(火)14時～16時
  - 2 開催場所 市役所10階 協働会議室
  - 3 会議次第 下記のとおり
  - 4 出席者  
(懇談会)：中澤会長、汐崎副会長、井上委員、羽田委員、山田委員、赤塚委員、大宮委員、河野委員、平岡委員、杉山委員  
(市)：内田市長、鈴木教育長  
(策定委員会)：八田委員長、高梨副委員長、大友委員、金子委員、大塚委員、島崎委員、菅原委員、加藤委員  
(事務局)：生涯学習課：斉藤主幹、島本副主幹、石井政策専門官、井口主任学芸員  
コンサルタント2名  
(傍聴人)：2名
- 

### 【会議資料】

【資料1】第3回(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定懇談会会議録

【資料2-1】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想素案から原案への修正点

【資料2-2】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想【原案】

### 【会議次第】

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 報告
  - (1) 第3回策定懇談会の会議録の承認について  
会 長：意見・質問なければ、承認いただいたこととする。
5. 議事
  - (1) (仮称)浦安市子ども図書館基本構想の原案について  
事務局：資料2-1、2-2に基づき説明。  
会 長：説明いただいた内容で、ご意見等あればうかがいたい。  
委 員：P49の②の一番最後の行に「子どもの成長に合わせてブックスタートや」とあるが、これはブックスタート事業のことか、それとも新しく乳幼児サービスとして実施するのか。  
事務局：今も図書館で行っているブックスタート事業を、引き続き実施するという意味である。  
委 員：中央館との差別化ということで、事務的な機能をすべて中央館から子ども図書館へ移すという話だったと思うが、図書館の全体的な命令・指示系統はどうなるのか。中央図書館から分離することにより、連絡事項がすぐに周知されないといった可能性への対応を考えていく必要がある。児童サービスと一般サービスの拠点が分離することにより、何らかの影響があることを考慮した方が良い。  
事務局：全体的な運営や業務については、中央図書館が担うことになる。例えば見計らい選

- 書については、一般書も含めて中央館でこれまでどおり行う方が良いと考えている。
- 委員：組織的に複雑になるような気がする。他の自治体で、子ども図書館と中央図書館がある場合、管理運営はどのようになっているのか。分けたことにより不具合が発生しないように、検討しておく必要がある。
- 事務局：他の自治体の事情まではわからない。組織的にどうなるかはわからないが、中央図書館の係の一つとして位置づけられることになるのではないかと。狭い市域であり、中央図書館で会議もあるので、うまくやっていきたい。
- 委員：図書館全体のサービスや運営については中央図書館が統括し、児童サービスについては新しい図書館で責任を持つということか。
- 会長：新しく子ども図書館をつくった自治体の事例をみて、役割分担や、うまくいっていないところを聞いたりしながら、検討すると良いかもしれない。
- 委員：横須賀の児童図書館はサテライトという感じであり、中央図書館の児童コーナーは小規模なものというように、差別化している。いろいろなパターンがあって良いと思う。
- 委員：日の出分館と隣接するということが、親子で来たとき、大人が分館に行って、子どもが子ども図書館に行けるような距離感なのか。
- 事務局：同じ敷地の中に、4,700㎡の公民館があって、その公民館の1階に230㎡の図書館がある。新築か増築かはあるが、敷地は公民館の隣接地になる。
- 委員：ティーンズコーナーをつくる時、選書方針や、その中にどのようにティーンズの声を取り入れていくかが一番難しい。ティーンズコーナーは他の分館にも設けるのか。日の出の建設予定地は、ティーンズコーナーの本に触れた子どもたちが、次のステップとして大人の本を探しにいけるような立地なのか。また、親子で一緒に来たときに大人は日の出分館、子どもは子ども図書館へと分れて利用できると思えば、そこがうまくできれば、多くの利用が見込まれるのではないかと。
- 会長：建物としてつなげるということはあるのか。
- 事務局：今後の検討になるが、幼児の場合、子どもだけで来ることはないで、大人のための何かが必要だとは考えていた。子ども図書館の中に一般書を置くという案もあり、先進事例でもそうした対応が多かったが、隣接地となったことで、その心配はなくなったと考えている。ティーンズコーナーについては、他の分館にはコーナーを設ける余裕はなく、中央館もこれまで余裕がなかった。子ども図書館については、日の出分館から児童書とティーンズに向くような一般書を、抜き出してティーンズコーナーに置ける。一般書が必要な場合は子ども図書館のバックに日の出分館があるというところで、つなげて使っていけると良いと考えている。
- 委員：日の出分館の児童書は引き上げる可能性もあるということか。
- 事務局：日の出分館は狭いため、整備が必要である。今の段階では児童書は子ども図書館に引き上げるのが妥当と考えているが、日の出分館をどう扱うかは来年度以降の検討になる。
- 会長：2つの施設が有機的に活用できるようになると良い。構造上、そうなると良い。
- 委員：1番必要なものは何かと考えると、やはり本だと思う。市立図書館の資料購入費は震災以降減少している。平成28年度の児童書の新刊出版件数は4,871冊、平成29

年度に購入した児童書は7,372冊である。新刊を全部買う必要はないが、同時に買い替えが必要になる。平成27～29年の3年間の除籍率は6%であった。図書の更新が6%というのはどちらかといえば少なく、古い本を一生懸命に使うという状態である。新館が建つときだけ費用がついて、その後図書費がつかなくなるのは辛い。例えば、P46の図書館像に、「子どもの読書活動を推進するためには、子どもはもちろん、子どもを取り巻く大人が読書に興味を持ち、読書と関わりを持つことが大切です」とあるが、その次の「子ども図書館は」の後に、「豊富な資料を揃え」という記載をしてはどうか。本がたくさんある、しかも絶えず更新され、活発に使われる、だからこそ魅力があって、子どもたちが集う、そういう図書館になってほしい。こうした資料に関するところが、どこかに掲載されていると良い。

委員：資料は新刊で揃えるのか。

事務局：P51に蔵書冊数が開架スペースで約5万冊、全体の所蔵冊数が約15万冊と記載している。購入もするが、中央館からも資料を持っていくことになると思う。

委員：日の出分館は児童書が約18,000冊、中央館の地下の書庫には約10万冊あり、状態の良いものやきれいなものもあるが、多くが古い本である。一気に5万冊購入するよりも、少しずつ更新していき、きれいな本がいつもある状態であってほしい。ちなみに、現在、市立図書館には、児童書が合計で約25万冊あるが、市内の小・中学校26校は、どの学校も学校図書館の図書標準をクリアしていて、各学校に最低でも1万冊以上の蔵書がある。蔵書の合計は26万冊以上で、図書館より蔵書が多いことになる。市立図書館が学校をバックアップするというだけでなく、場合によっては学校から市立図書館が本を借りたり、学校図書館同士が助け合うことで様々な効果が考えられる。一方で、保育園はこれに比べると厳しい状況のため、団体貸出では保育園を助けていただきたい。

委員：建物が新しくなると、市民は新しいきれいな本が並ぶことを期待していると思うが、予算的に厳しい事情もわかる。子どもの本は一般書に比べて絶版は少ないが、入手できないものもある中で、中央館の状態の良いものを持ってくることはあると思う。選書の目を持った職員に対応していただきたい。最近、新しくできた図書館に行ったが、書架はきれいだが、書架を埋めるために昭和40年代の、今の子どもたちが読まないような本が並べてあった。子どものためにきちんと選ばれた本が書架に並ぶことが重要である。新しい本の購入、定期的な購入のほか、今買えない本でも出版社の倉庫に行って購入するなどのイレギュラーな方法もあるかもしれない。建物ができてからのことではあるが、本を揃える努力と、役に立つ書架づくりに目配りをしてほしい。

会長：長期に渡って、新しい本を常に入れ替えていくことは重要である。学校や保育園との連携は、構想の中にも示されているので、実現していただきたい。

事務局：8年前に高洲分館を建設した際は、約400㎡の中に、2年間で約7,500万円分の図書を購入しており、今回も購入すると思う。

委員：P53の開架・閲覧スペースの項の中に「視聴覚資料の収集」とあるが、何を収集するのか。最近、若い人は音楽をダウンロードするようになり、CDが売れなくなっている。CDがあまり出ていない中で、図書館が揃えるべき視聴覚資料とは何なのか。

本の充実の中に、雑誌や定期刊行物とともに視聴覚資料を位置付けると、これに予算を浸食されて、必要な資料が買えなくなる。構想に視聴覚資料と掲載することは、理想的ではあるが、実際の現場では難しいことにならないか。また、学校図書館との差別化、と記載があったが、カリキュラムをどのくらい支援できるかも含めて、差別化ではなく共有できる視点を考えていただけると、学校側としても良いのではないか。

会 長：現時点で、子ども用の視聴覚資料の収集の方針はあるのか。

事務局：中央図書館に全体的な方針があるが、子ども用ということではない。構想の中では、資料を幅広く集めるという視点で記載しており、視聴覚資料について、特に力を入れるということではない。

会 長：視聴覚資料は単価も高いため、選定が必要、一定の基準があったほうが良い。学校の利用に関しては、調べ学習等で来館して利用できるのは良いと思う。

委 員：ハードあつてのソフトだと感じる。この構想やイラストを見るとワクワクしてくる部分がある。自分が利用することを考えると、駐車場は何台入るのかとか、日の出は自宅からは少し遠いので、日の出地区の人がうらやましいと感じる。市内の様々なところからアクセスしやすいとありがたい。日の出分館と、新しい図書館の行き来がしやすいと良い。

会 長：新しいバスの整備はありえるのか。

事務局：車が 80 台程度止められる駐車場があり、おさんぽバスは 20 分に一本、路線バスの本数も多い、一番良い場所だと思う。

委 員：学校がクラス単位で来られるような部屋の確保ということだが、利用の際は学校の先生が連れてくることになると思う。そういう利用が可能な学校は、周辺にどの程度あるのか。

事務局：日の出周辺には 3 校ある。施設としては部屋というより、小学生ゾーンの開架スペースにテーブルを 6 つくらい置き、調べ物を閲覧スペースで行うというイメージで考えている。

委 員：学校として来られるところは限られるのではないか。

事務局：一クラス 30 人くらいが入れるようなイメージである。どの学校が来館できるかについては、個別にバスを走らせるわけにもいかないため、来館を PR して、申込んでいただき、来ていただくような形を考えている。

会 長：特定の学校だけというのはもったいない。

委 員：イベントで図書館見学ツアーみたいな形で、学校から図書館に行けるような取り組みがあると良い。

会 長：学校単位や、クラス単位でそうしたイベントがあると良いかもしれない。

事務局：引率などもあり、学校の方から来ていただく体制がないと対応はなかなか難しいと思われる。

委 員：体験で図書館見学があったと思う。

委 員：低学年が地域の施設を回る趣旨で実施しており、必ず中央図書館を見学するということにはなっていない。離れた地域の場合は、中央図書館には来ていない。どうしても地域差が出る。

- 委員：千葉市では学校で120人ぐらいまとめて図書館の見学を行っている。
- 教育長：2年生はまち探検、3年生になると浦安のまちの学習が始まり、例えば元町の子どもは新町探検をしている。郷土博物館にも見学に行っているの、新しい子ども図書館に見学に行っても良いのではと考えている。
- 委員：どこにできても、遠い人はどうしても出てくる。みんなが来館できるチャンスが、なんらかの形で用意されると良い。
- 委員：まち探検で図書館に興味を持つ子もいると聞いている。
- 会長：ほかに何か言い残しは無いか。
- 委員：開架スペースに5万冊、書庫に10万冊というバランスはどういうことなのか。本が古いから書庫にたくさんしまっているのか、浦安基準の選書があるのか。どこの図書館もこうしたバランスなのか。
- 会長：開架スペースと書庫の蔵書の違いはどういうものか。
- 委員：どこの図書館も蔵書の多くは書庫に置いている。クリスマスの本など季節によって出すものもあり、そういった本を全部出してしまうと、書架がいっぱいになり、取り出しづらくなる。また、本が多すぎると子どもが探せないという問題もある。図書館はそうしたバランスを考え、手に取りやすい、きれいな本を出している。同時に開架になくても、書庫にあれば所蔵していると伝えている。
- 会長：どのくらいの間隔で入れ替えるのか。
- 委員：書庫には、季節に応じて出すものや、お店のようにストックとして開架フロアにある本と同じものがたくさんある。入れ替えというよりも、人気のある絵本は土日に借りられて書架からなくなるので、書庫から出して対応する。全部開架フロアに置いてしまうと、同じ本が多くなったり、真夏でもクリスマスの本があつたりして、わかりづらくなる。
- 委員：学校で子どもたちが地域を知る取り組みがあるというお話があつたが、子どもたちを子ども図書館にどうやって連れて行くのかという問題がある。市のバスか路線バスになるだろうが。おさんぽバスは全員が乗ったらいっぱいになってしまう。また、どうしてそこに行くのか、どういうことを学ばせたいのかといった目指すものを、教職員とともに考える必要があるのではないか。学校図書館との連携についてだが、学校はこれまで市立図書館にお願いすることが多かったため、相互に連携していくということで驚いている。システム構築についても、学校のシステムとどう連携していくのか、蔵書の検索や運搬も含めて相談していく必要がある。視聴覚資料については、電子書籍やネット配信が多くなっている中で、ニーズがどの程度あるのだろうか。新しいものでないと古い資料だと調べる内容にも影響するため、考えていただきたい。
- 委員：構想を見てイメージが膨らんだ。毎回出席するたびに、会議の内容を公立の14園の幼稚園の会議で報告している。日の出に設置が決まった旨を伝えたところ、他の地域の方からは残念であるというような声が聞かれた。自分たちでどこまで連れて行けるかを考えたときに、駐車場の状況はどうか、園単位で何かしてもらえるのかといった意見もあつた。クラス単位で連れて行くことは難しいが、郷土博物館にも遠足を兼ねて訪れているので、小さいうちから図書館や本に触れ合えるような構想

を練って頂きたい。

委員：自身も今川に住んでいるので、日の出地区での整備については残念である。ただ、子どもはおさんぽバスをよく利用しており、行きたいという魅力があれば、乗り換えをしてでも行くと思うので、魅力のある図書館にしてほしい。気に入った本があると、シリーズや同じ作者の本も読みたいと思うが、書架にないことも多い。職員に自分で聞ける子どもは良いが、聞けない子どもはそこで途切れるので、いつでも相談できるような開いた感じがあると良い。

会長：カウンターの職員に聞きやすい工夫も必要である。

委員：児童サービスにフロアサービスというのがあるが、子どもが話しかけてくるのを待つのではなく、子どもの潜在的な要求を引き出せるようなスキルを持った人材が必要である。資料があるのに子どもが見つけれなかったり、手ぶらで帰るということがないように、支援できる職員がいると良い。児童サービス担当の職員の育成をしていただきたい。

教育長：東京子ども図書館を視察させていただいたが、子どもに特化した図書館になれば、ハードルが低くなり、子どもが利用しやすいというところはある。ローカウンターの施設ができれば、子どもが相談もしやすくなると思う。

会長：構想を見ると、人材育成を大切に考えてくださっている。

委員：東京子ども図書館では、職員ひとりひとりが子どもに本を読んであげている。そうした取り組みをすると、職員も子どもの気持ちの理解につながり、選書の視線も養われる。公立では難しいと思うが、特定の日や時間に、子どもさんに本を読みますといったような踏み込んだサービスを始めても良いと思う。子どもは読んであげると、必ずその本を借りて帰るので、結びつける効果もある。

会長：新しい、良いアイデアである。最後に皆様に、1年間この会議に関わられての感想等を一言ずついただきたい。

委員：市民の皆さんが楽しみにされている中で、水をさすようだが、今の子どもはみんな忙しい。図書館が近くにある人はともかく、そうでない人にとって、図書館に行くというハードルは高いと思う。最初のうちは人が来るだろうが、平日の午前中などはなかなか人が来ないと思う。でも、来館者が少なくても、裏では職員が研修をしていたり、他のサービスをしたりしている。そういうように、貸出冊数や来館者数だけでなく、市全体の図書館の児童サービスを支えるのが子ども図書館の一つの使命であると思うので、数字に捉われずに、下支えになるというところに、志を持って運営して欲しいし、評価する側も着目して欲しい。

委員：図書館を退職して、別の視点で図書館を見ることができるようになった。図書館の利用目的や理由には、様々な要素があり、本と出会うということが大きいですが、例えば乳幼児の場合だと、お母さんが赤ちゃんを連れてわらべ歌の会に来た時には、お母さんに子どもと触れ合いを楽しむように伝えている。一方で、子どもが学校に上がると、親はお子さんと触れ合う機会が減ってしまう。図書館の役割は、そういう触れ合いの機会や、場所、それに関わる人の提供やサービスということだと思う。そういう意識を持っていただけると良い。利用率は千葉市でも図書館の評価によく使われるが、それ以外の評価の視点もある。新しい図書館を目指す試みを長く維持

できるよう、学校や保育園とも結びつくような図書館になっていただきたい。

- 委員：図書館の児童サービスを約7年間担当してきた。会議に出席するにあたって、リアルに考えすぎた部分もある。現役だった頃の経験としては、保育園が増えて認可保育園だけでも35園ある中で、昼間に子どもに来てほしいと思っても、物理的に来られないので、逆に保育園と連携して来館してもらうという取り組みをしていたが、今後子ども図書館だけがそうしたサービスを担うのではなく、中央図書館も活用しないともったいないと思う。児童書も4万冊あるので、うまく連携して利用者が使い分けをしていけると良いのではないかと。P49の①に「子どもも親子も」と記載があるが、実際には、祖父母が子どもを連れてくるケースも多いので、親子よりも「子どもと保護者」が適切な表現ではないかと思う。中央図書館では、午前中は、読み聞かせ用の本を探す人や孫のために本を探す祖父母が来館しており、意外に利用があった。利用があまりないのはお昼から下校時間前までの時間だった。中央図書館のそうした人の動きに流れができると、より良いサービスにつながるのではないかと。図書館や本に関心のない保護者がいるため、保育園との連携はあると良いと思う。
- 委員：自身が子どもの頃は図書館や本に興味はなかったが、わが子には本が好きになるよう読み聞かせなどをしてきた。その結果、ちょっとずつ反応が出てきたことや、大人が読んでも面白い絵本に出会えたことを喜んでいる。読み聞かせをする保護者にも本の楽しさを知ってもらいたいと思う。子ども図書館が「屋根のある公園」というキャッチフレーズのように、いつも身近にある場所になってくれると良いと思う。
- 委員：自身は小学校で昼休みに読み聞かせをしている。1・2年生で来てくれた子が、高学年になると来てくれなくなる。子ども図書館が成功したら、浦安はこれまで以上に日本一の図書館になると思う。個人的には、子ども図書館に「本の港」というイメージを持っている。人の動きの要所であり、いろいろ展開しやすいキーワードとして“港”もあるのではないかと。貴重な話も聞けて、参加できてありがたかった。なんらかの形で、今後も子ども図書館に関わらせていただきたい。
- 委員：先ほどお話があった、貸出冊数や来場者数が重要ではないという点であるが、学校図書館についても、少子化の中で貸出冊数が伸び悩んでいる実態がある。本に囲まれている生活が子どもたちにどのように影響するかは、なかなか数字に現れにくい。教育長から学習指導要領の改定のお話もあったが、調べ学習などが推進される中で、子どもが育む力は、図書館にも強く関わると感じる。
- 委員：浦安市で母子手帳の交付の際にいただいた本に、読み聞かせやブックスタートについて書かれていた。夜の短い時間であっても読み聞かせを続けるようにという話もしてくださり、その習慣は今も続いている。そうした中で子どもも本に興味を持ってくれた。一方で、以前もお話したが、子どもが分館に行った際、声を出したらおじさんに怒られ、本の借り方もわからないから何もせずに帰ってきたと話していたことがあった。子どもの興味や利用がそこで途切れるのは残念である。本の興味をつなげるような施設として子ども図書館があると良い。娘が小学校で本構想策定に関するアンケートを書いたそうで、思った以上に子どもたちは子ども図書館を意識しているようだ。建設までにまだ時間がかかるようなので、子どもたちが忘れる前に進捗状況などもアピールしていただきたい。

委員：基本構想に昭和 58 年に中央図書館ができたと書かれている。自身が子どもだった当時から、浦安は本を借りる人が多いといった話をきいていた。大人になって、また新しい図書館ができるというのは、ラッキーだと感じている。期待しているし、楽しく使わせていただきたい。会議に参加して、皆さんのお話が聞けて、非常に勉強になった。図書館の運営や職員の方の想いも伝わってきた。次に利用する際の心持ちも変わったと思う。

委員：これまで他の自治体の図書館の取り組みも見てきたが、この会議に参加して、行政の方の熱心さや、図書館に係る職員の皆様の熱意が伝わってきた。浦安の図書館サービスの良さは、当たり前のように言われているが、新しい図書館ができる中で、その建物を埋める資料と人にはとても大きな期待をしている。P46にもあるように、すべての子どものための図書館であり、大人のための図書館であり、市民のみんなが集まれる場所としての図書館が、子ども図書館として実現すれば、建物が独立してつくられることにも意味があると思う。浦安がそういう風に良いサービスをしてくれば、他の自治体のサービスの向上にもつながる。是非、先導者になっていただきたい。最後に今更のようだが、障がいのある子どもや、日本語を母語としない子どもに関する記述が盛り込まれていないような気がする。すべての子どもたちということであれば、障がいのある子どもや、日本語を母語としない子どもに関して、考慮していただきたい。ぜひ良い図書館をつくっていただきたい。

会長：浦安は図書館のまち、子育てに熱心なまちと理解されている。子ども図書館はこの二つが合体したような、まさに浦安らしいものである。その図書館の基本構想策定に関わったことはありがたかった。専門の先生や保護者など、様々な立場からのご意見を聞くことができて、勉強になった。これからの図書館は今まで通りではなくなると思う。新しい学習指導要領の中で主体的で対話的な学びというときに、主体的＝子どもたちが知りたいことを考え、対話的＝友達同士で話をしたり、本と対話する、自分で調べて活字と対話するということである。それが本当に深い学びにつながると思う。これからの教育の大切な部分がある。大学では入試でそれをどう評価するかが問題になる。今まで通りの図書館ではなく、新しい学びをサポートするような図書館として、学校図書館等との連携も重要である。実現していただきたい。また、障がいのある子どもや、他文化の子どもの支援も考えて計画に盛り込んでいただきたい。また、せっかくの図書館なので、中学生の職業体験や子どものボランティアなど、子どもが参加できる図書館にしていただければ嬉しい。ご協力いただき、ありがとうございました。

※ 各委員が、(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定懇談会に関わった感想等を述べた後、内田市長に懇談会委員へのお礼及び挨拶をいただいた。

事務局：委員の皆様ありがとうございました。本日の懇談会が最後となります。

6. その他

7. 閉会

以上